

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	熊本県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	菊池郡合志町立合志小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	20
児童数	62	49	71	65	64	69	2	382	

研究の概要

1. 研究主題

「基礎学力」の確かな定着と「知力」の育成

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

1年～6年、国語科を中心に
 研究主題設定の理由は、以下の通りである。
 ・「確かな学力」とは、「基礎・基本」(中核をなすものは「基礎学力」と考える)と思考力や判断力、表現力、学ぶ意欲、学び方などで代表される力から成り立つ。
 ・「基礎学力の確かな定着」とは、すべての教科の基礎である読み・書き・計算を根底に置き、各学年で学習指導要領に示された指導事項を確実に身に付けさせることを意味する。
 ・「知力の育成」では、学んで得た知識や技能を活用するときに、知力が育まれ、「分かってできる力」が育つと考える。

(2) 年次ごとの計画

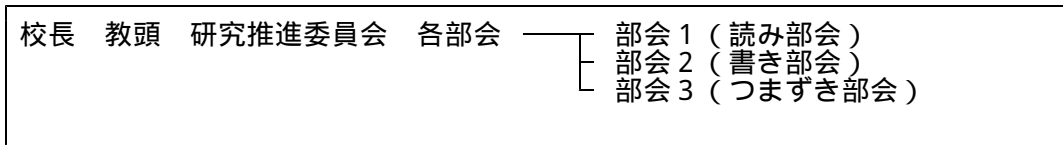
平成14年度	(学力向上フロンティアスクールの指定なし)
--------	-----------------------

平成15年度	目標「確かな学力」が身につく授業づくり、「読むこと・書くこと」の基礎・基本、つまずいている子に対する手だてを考える。 研究の仮説1 「読みたい・書きたい」という意欲を高める中で、基礎・基本を教えるならば、確かな学力が身につくであろう。 仮説2 しっかり考える場や学び合いの場を単位時間の中に設定することにより、思考力や判断力、表現力を伸ばすことができるであろう。 仮説3 学年に応じた学び方を確実に身につけさせれば、主体的な学習活動が展開され、知力を伸ばすことができるであろう。
--------	--

平成16年度	テーマ「基礎学力」の確かな定着と「知力」の育成～読むこと・書くことの活動を通して～ 研究の見通し 一斉学習とコース別学習からなる学習過程の創造、学び方の習熟、表現の場の設定、複数教師による指導体制づくり 研究の内容・方法 外部講師を招聘した理論研究会、授業研究会を中心に
--------	---

* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

読むこと・書くことに関する基礎・基本が明確になってきた。
「わかる かわる できる」の学習指導過程がつけられ、徹底指導と能動型学習、換言すれば、めりはりのついた授業展開がなされつつある。
子どもの意欲を高めるための授業の工夫がなされてきた。
自分の考えをはっきりともち、自分の言葉で表現しようとする子どもが育ってきている。
少人数の指導体制づくりが図られてきた。

2. 今後の課題

一斉学習とコース別学習からなる学習過程及び学習形態の研究をする。
系統的な読みができるように、学び方を指導し、一層の習熟を図っていく。
発表する機会を多く設ける。(書いたり発表したりする能力を高める。)
一人ひとりに応じた支援と指導の仕方を研究する。
意欲や思考力、判断力などの「知力」につながる評価の記録を積み上げていく。

学力等把握のための学校としての取組

部会ごとのアンケート調査 < 1学期に実施 >
標準学力検査 (NRT) < 5月と2月に実施 >
生活適応検査 (AAI) < 6月に実施 >

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

毎月一回 合志町学力アップ委員会において報告し、他校へ広める。
6月、2月 管内学力充実推進協議会での報告、発表
1月16日 管内教育論文提出
2月25日 公開授業研究会(授業研究を中心に)の開催

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無